

## 【2】研究の経過と本年度の取り組み

### 1 平成7年度（1年次）の取り組み

平成7年度から新たに「生活を楽しむ子」をめざしてのテーマのもとに研究に着手することになった。中学部の教育目標は「友だちといっしょに、自分らしさを表現しながら、仕事や運動に力いっぱい取り組む子」を育てることである。この目標を基盤におき、思春期に位置し、自分づくりで「自己形成視」の段階にある中学部の生徒にとっては、生活が自分自身が主体となって成り立っていると実感されるものでなければ、心からの楽しさや充実感は味わえないと考えた。ここに研究の視点をおき、真に生徒の内側に切り込む実践を志向して、めざす像や学部テーマを設定し、研究の方向を模索していった。

- (1) 実態把握 テーマ設定の意義を明確にするため、生徒と保護者を対象にアンケート調査をし、生徒の家庭生活の様子や両者の意識の実態をつかんだ。また、諸検査や観察により、生徒の発達の実態・興味・関心の傾向等を多面的にとらえた。
- (2) 実践の場 中心は生活単元学習であるが、教科や他の領域も、その場として考えた。
- (3) 授業づくり 題材の選定を核にして、生徒が心から楽しめる授業づくりに努めた。
- (4) 題材選定の視点 昨年度までの単元を新しいテーマにそって見直し、題材を検討した。  
その結果キャンプ・校外学習・修学旅行・連合運動会・大山宿泊学習・学習発表会・連合卓球大会・ザ、中学部忘年会・ふれあい広場の題材を選定して、実践に取り組んだ。

### 2 本年度（2年次）の取り組み

1年次に立案した研究の構想に従い、実態把握を継続しながら授業づくりの実践を重ねた。試行錯誤を繰り返しながら、テーマにアプローチする題材の精選や検討を行った。

また、「個に応じた題材の選定」に合わせて「支援の工夫について」を、具体的に取り入れて実践を進めた。

#### (1) 題材の選定

- ・生活単元学習では、年間を通した単元の構成や題材の配列の検討を行い、単元間のつながりや発展を確認した。個に応じた題材や内容を意図してねらいを明確にし、新たに開拓し、試行した。

#### (2) 支援の工夫

- ・発達段階、自分づくりの段階に応じた支援のポイントを共通理解し、学習に生かした。
- ・PLAN-DO-SEEの段階における支援を意識し、実践に生かすように試みた。

#### (3) 個に応じた目標の設定

- ・一人ひとりの目標を生徒に分かりやすい言葉（生徒自身から引き出す）で表現し、自己反省をさせて、次への意欲につないだ。

#### (4) 家庭との連携

- ・学習内容や課題などについて、家庭でも積み上げていけるように、生活ノートで連携をとった。
- ・意欲をもって、主体的に活動しようとする姿勢を家庭にも持ってもらうように声かけをした。

（今崎）